



平成28年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年7月27日

上場会社名 バリューコマース株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2491 URL <http://www.valuecommerce.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 最高経営責任者 (氏名) 香川 仁
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 最高財務責任者 (氏名) 遠藤 雅知 TEL 03-4590-3600
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月9日 配当支払開始予定日 平成28年8月31日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年12月期第2四半期の連結業績（平成28年1月1日～平成28年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第2四半期	9,164	13.3	440	△42.8	494	△43.5	152	△73.2
27年12月期第2四半期	8,087	29.1	769	△7.2	874	△3.0	568	11.1

(注) 包括利益 28年12月期第2四半期 223百万円 (△62.3%) 27年12月期第2四半期 593百万円 (14.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年12月期第2四半期	4.59	4.59
27年12月期第2四半期	17.11	17.07

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年12月期第2四半期	10,206	6,268	60.9	187.20
27年12月期	10,125	6,244	61.2	186.47

(参考) 自己資本 28年12月期第2四半期 6,220百万円 27年12月期 6,196百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期	—	4.00	—	6.00	10.00
28年12月期	—	2.00	—	—	—
28年12月期 (予想)	—	—	—	6.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 無

3. 平成28年12月期の連結業績予想（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,000	14.1	1,260	△17.0	1,260	△23.9	820	△20.6	24.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年12月期 2 Q	34,471,000株	27年12月期	34,471,000株
② 期末自己株式数	28年12月期 2 Q	1,242,200株	27年12月期	1,242,400株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年12月期 2 Q	33,228,770株	27年12月期 2 Q	33,215,978株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料] P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

当社は、平成28年7月28日（木）にアナリスト及び機関投資家向け説明会を開催する予定です。

この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、個人消費は消費者マインドが横ばいとなる中、雇用情勢が改善し、足踏みが見られつつも企業収益は高い水準にあります。景気の先行きにつきましては、雇用・所得環境の改善の期待から緩やかな回復傾向がある一方、中国を始めとするアジア新興国等の景気減速、金融資本市場の変動などから下振れする懸念があります。

当社グループが所属するインターネット広告市場は、スマートフォンを利用したアプリやソーシャルメディアなどのビジネスが拡大傾向にある中、インターネットにおける膨大な情報を活用する広告関連技術（アドテクノロジー）、インターネットと実店舗を繋ぎ集客するO2O（オン・ライン・ツー・オフライン）サービス、さらには、顧客との関係構築・維持のためのマーケティングオートメーションサービスなどが関心を集めております。

このような環境の下、当社グループは、既存事業であるアフィリエイトマーケティングサービス事業、ストアマッチサービス事業を進める他、スマートフォン向け広告配信のアドネットワークサービス事業、マーケティングオートメーションサービスである「R∞（アールエイト）」に注力いたしました。

売上高については、9,164,426千円（前年同四半期比13.3%増）となりました。営業利益は、既存事業が堅調であった一方、アドネットワークサービス事業においてメディアネットワーク拡大のための施策を積極的に取り組んだ他、前期に行われた事業譲受に係るのれん償却額を計上したこと、並びに、デジミホ株式取得に係るのれん償却額及び当該子会社経費を計上したことにより、440,238千円（前年同四半期比42.8%減）となりました。

経常利益は、営業外収益に持分法による投資利益32,621千円及び受取保険金45,705千円、営業外費用に投資事業組合運用損23,573千円を計上したことにより、494,153千円（前年同四半期比43.5%減）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別損失として、投資有価証券評価損149,739千円、固定資産の減損損失18,787千円、本社移転費用16,143千円の他、法人税等157,104千円を計上したことにより、152,378千円（前年同四半期比73.2%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適正に評価するため、主に一般管理費の配賦基準等を見直し、報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行いました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメントの業績は、変更後の算定方法に基づき作成しております。

①アフィリエイトマーケティングサービス事業

当第2四半期連結累計期間におきましては、主に旅行分野、人材分野及び美容分野向けのサービスが好調に推移したものの、金融分野の一部広告主が引き続き運用効率を追求する姿勢を強めた結果、セグメント売上高は7,810,155千円（前年同四半期比6.2%増）、セグメント利益は1,201,576千円（前年同四半期比0.0%増）となりました。

②ストアマッチサービス事業

当第2四半期連結累計期間におきましては、Yahoo!ショッピングに出店するストア向けのサービスが堅調に推移したことにより、セグメント売上高は736,760千円（前年同四半期比11.4%増）、セグメント利益は99,216千円（前年同四半期比76.3%増）となりました。

③アドネットワークサービス事業

当第2四半期連結累計期間におきましては、前期に事業譲受いたしました「AdLantis（アドランティス）」と自社開発の「ADRESSO（アドプレッソ）」の両プラットフォームを平成28年2月に統合し配信機能の強化に努め、また、広告配信先であるメディアネットワーク拡大のための施策を積極的に進めました。この結果、セグメント売上高は300,688千円（うち内部売上高は687千円）（前年同四半期のセグメント売上高は49,916千円）と増加する一方、セグメント損失は274,722千円（前年同四半期のセグメント損失は157,685千円）となりました。

④その他の事業

新規事業を包括する報告セグメントで、マーケティングオートメーションサービスの「R∞」、O2Oサービス、メディアサービス等を含みます。

当第2四半期連結累計期間におきましては、主に、マーケティングオートメーションサービス「R∞」を展開する株式会社デジミホを連結子会社化したこと及び当該子会社株式に係るのれん償却額を計上したことにより、セグメント売上高は341,116千円（うち内部売上高は23,606千円）（前年同四半期のセグメント売上高は38,171千円、うち内部売上高13,565千円）、セグメント損失は409,007千円（前年同四半期のセグメント損失は171,442千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

1. 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は10,206,780千円となり、前連結会計年度末と比べて81,354千円増加いたしました。

流動資産は7,277,483千円となり、前連結会計年度末と比べて165,854千円減少いたしました。これは、主に受取手形及び売掛金が74,862千円増加したものの、現金及び預金が236,250千円減少したことによるものです。

固定資産は2,929,296千円となり、前連結会計年度末と比べて247,209千円増加いたしました。これは、主にのれんが249,024千円減少したものの、ソフトウェアが171,477千円、ソフトウェア仮勘定が84,877千円、差入保証金が242,566千円増加したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は3,938,602千円となり、前連結会計年度末と比べて57,932千円増加いたしました。

流動負債は3,802,215千円となり、前連結会計年度末と比べて6,367千円増加いたしました。これは、主に未払法人税等が198,236千円減少したものの、買掛金が114,054千円、未払金が107,034千円増加したことによるものです。

固定負債は136,387千円となり、前連結会計年度末と比べて51,564千円増加いたしました。これは、主に繰延税金負債が55,003千円増加したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は6,268,177千円となり、前連結会計年度末と比べて23,422千円増加いたしました。これは、主に利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により152,378千円、その他有価証券評価差額金が71,781千円増加したものの、剰余金の配当により199,371千円減少したことによるものです。

2. キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は3,962,551千円となり、前連結会計年度末と比べて236,250千円減少いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は480,309千円（前年同四半期は337,762千円の獲得）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益が309,483千円であり、マイナス要因として、法人税等の支払額が367,280千円、売上債権の増加額が74,849千円、持分法による投資利益が32,621千円であったものの、プラス要因として、投資有価証券評価損が149,739千円、減価償却費が126,523千円、仕入債務の増加額が114,054千円、未払金の増加額が103,153千円、のれん償却費が86,666千円であったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は498,310千円（前年同四半期は268,968千円の使用）となりました。これは、主に差入保証金の差入による支出が242,686千円、無形固定資産の取得による支出が203,816千円であったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は213,906千円（前年同四半期は195,454千円の使用）となりました。これは、主に配当金の支払額が198,446千円、長期借入金の返済による支出が14,700千円であったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年1月29日の「平成27年12月期 決算短信」で公表いたしました平成28年12月期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第2四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,198,801	3,962,551
受取手形及び売掛金	2,452,495	2,527,358
繰延税金資産	29,510	20,471
未収入金	706,639	698,676
その他	57,284	69,569
貸倒引当金	△1,392	△1,143
流動資産合計	7,443,338	7,277,483
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	581	—
工具、器具及び備品(純額)	49,881	66,244
リース資産(純額)	1,866	1,104
その他	804	—
有形固定資産合計	53,132	67,349
無形固定資産		
ソフトウェア	464,417	635,894
ソフトウェア仮勘定	1,112	85,990
のれん	983,282	734,257
その他	44,400	98,978
無形固定資産合計	1,493,212	1,555,121
投資その他の資産		
投資有価証券	1,093,208	1,060,925
差入保証金	1,511	244,078
繰延税金資産	34,561	—
その他	6,690	2,039
貸倒引当金	△230	△217
投資その他の資産合計	1,135,741	1,306,826
固定資産合計	2,682,087	2,929,296
資産合計	10,125,425	10,206,780

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,075,456	2,189,511
未払金	1,159,636	1,266,670
未払法人税等	373,758	175,522
その他	186,995	170,510
流動負債合計	3,795,847	3,802,215
固定負債		
長期預り保証金	82,713	80,127
繰延税金負債	—	55,003
その他	2,109	1,256
固定負債合計	84,823	136,387
負債合計	3,880,670	3,938,602
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,728,266	1,728,266
資本剰余金	1,088,466	1,088,558
利益剰余金	3,583,308	3,536,315
自己株式	△199,691	△199,659
株主資本合計	6,200,350	6,153,481
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3,740	68,041
為替換算調整勘定	△447	△1,057
その他の包括利益累計額合計	△4,188	66,983
新株予約権	48,593	47,712
純資産合計	6,244,755	6,268,177
負債純資産合計	10,125,425	10,206,780

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
売上高	8,087,768	9,164,426
売上原価	6,042,334	7,238,011
売上総利益	2,045,434	1,926,414
販売費及び一般管理費	1,276,428	1,486,175
営業利益	769,005	440,238
営業外収益		
持分法による投資利益	70,685	32,621
投資事業組合運用益	30,898	—
受取保険金	—	45,705
その他	4,994	7,656
営業外収益合計	106,578	85,983
営業外費用		
投資事業組合運用損	—	23,573
為替差損	37	7,047
その他	552	1,446
営業外費用合計	589	32,068
経常利益	874,994	494,153
特別損失		
本社移転費用	—	16,143
減損損失	9,119	18,787
投資有価証券評価損	—	149,739
特別損失合計	9,119	184,670
税金等調整前四半期純利益	865,874	309,483
法人税、住民税及び事業税	314,016	163,952
法人税等調整額	△16,305	△6,847
法人税等合計	297,710	157,104
四半期純利益	568,164	152,378
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	568,164	152,378
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25,210	71,781
為替換算調整勘定	△9	△609
その他の包括利益合計	25,201	71,171
四半期包括利益	593,365	223,550
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	593,365	223,550
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	865,874	309,483
減価償却費	74,019	126,523
のれん償却額	15,246	86,666
株式報酬費用	7,589	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△343	△262
受取利息	△432	△416
支払利息	69	57
為替差損益(△は益)	8	7,054
持分法による投資損益(△は益)	△70,685	△32,621
投資事業組合運用損益(△は益)	△30,898	23,573
投資有価証券評価損益(△は益)	—	149,739
減損損失	9,119	18,787
本社移転費用	—	16,143
売上債権の増減額(△は増加)	△341,469	△74,849
仕入債務の増減額(△は減少)	126,308	114,054
未収入金の増減額(△は増加)	△67,993	7,962
未払金の増減額(△は減少)	45,306	103,153
預り金の増減額(△は減少)	△11,158	△4,983
預り保証金の増減額(△は減少)	△12,850	△2,586
その他	△46,057	△24
小計	561,653	847,455
利息及び配当金の受取額	28,484	10,999
利息の支払額	△69	△57
本社移転費用の支払額	△29,808	△10,807
法人税等の支払額	△222,498	△367,280
営業活動によるキャッシュ・フロー	337,762	480,309
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△12,613	△33,206
無形固定資産の取得による支出	△52,994	△203,816
投資有価証券の取得による支出	—	△34,544
投資有価証券の償還による収入	—	15,824
投資事業組合からの分配による収入	52,984	—
差入保証金の回収による収入	93,774	119
差入保証金の差入による支出	△119	△242,686
事業譲受による支出	△350,000	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△268,968	△498,310
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の処分による収入	2,963	92
長期借入金の返済による支出	—	△14,700
配当金の支払額	△197,600	△198,446
その他	△817	△852
財務活動によるキャッシュ・フロー	△195,454	△213,906
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17	△4,343
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△126,678	△236,250
現金及び現金同等物の期首残高	4,742,365	4,198,801
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,615,686	3,962,551

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I. 前第2四半期連結累計期間(自平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1、 2	四半期連 結損益及 び包括利 益計算書 計上額 (注) 3
	アフィリ エイトマ ーケティ ングサー ビス事業	ストアマ ッチサー ビス事業	アドネッ トワーク サービス 事業	その他の 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上 高	7,351,835	661,410	49,916	24,605	8,087,768	—	8,087,768
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	13,565	13,565	△13,565	—
計	7,351,835	661,410	49,916	38,171	8,101,333	△13,565	8,087,768
セグメント利益又 は損失(△)	1,200,988	56,282	△157,685	△171,442	928,143	△159,138	769,005

(注) 1. セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額△13,565千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△159,138千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「アドネットワークサービス事業」セグメントにおいて、当社はGlossom株式会社よりアドネットワーク事業「AdLantis (アドランティス)」を譲り受け、これに伴いのれんを計上しております。

なお、当該事象による増加額は、当第2四半期連結累計期間において289,677千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II. 当第2四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1、 2	四半期連 結損益及 び包括利 益計算書 計上額 (注) 3
	アフィリ エイトマ ーケティ ングサー ビス事業	ストアマ ッチサー ビス事業	アドネッ トワーク サービス 事業	その他の 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上 高	7,810,155	736,760	300,001	317,509	9,164,426	—	9,164,426
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	687	23,606	24,294	△24,294	—
計	7,810,155	736,760	300,688	341,116	9,188,720	△24,294	9,164,426
セグメント利益又 は損失(△)	1,201,576	99,216	△274,722	△409,007	617,062	△176,823	440,238

- (注) 1. セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額△24,294千円は、セグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△176,823千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他の事業」セグメントにおいて、前連結会計年度に株式会社デジミホの株式を取得したことに伴い暫定的に算定されたのれん724,097千円を計上しておりましたが、当第2四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了したことにより561,738千円に変動しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適正に評価するため、主に一般管理費の配賦基準等を見直し、報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行いました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の算定方法に基づき作成しております。